

第8回津別町議会臨時会『行政報告』

本日ここに第8回臨時会を招集いたしましたところ、議員各位には極めてご多忙のところご出席賜り、厚く御礼申し上げます。

ただいま発言のお許しをいただきましたので、第7回定例会後の行政報告を申し上げます。

はじめに、まちなか再生事業にかかる住民意向調査についてであります。広報9月号にて全戸配布しました冊子「続・まちなか再生事業について」の中で実施しました同調査に、507名の方から回答がありました。ご意見については、年代別にみると、10代1名、20代6名、30代16名、40代32名、50代38名、60代65名、70代以上92名、年代未回答の方16名で、計266名の方が記入されました。

2週間に満たない短い期間でありましたが、多くのご意見が寄せられましたことに感謝いたしますとともに、事業に対して疑問や誤解がまだ多くあることに、説明の機会が不足していることをあらためて認識した次第であります。

今後は、調査結果や結果に対する町の考え方を示すとともに、懇談の場を設け、広報・インターネット媒体などを活用し、事業に対しての

疑問や誤解を一つずつ解きながら事業を推進して参ります。

次に、**つべつ紅葉マラソン大会**についてであります。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが、今年度は10月3日に特別大会として開催したところ、町民・津別高校生135名が参加し、久しぶりに心地よい汗を流す機会を提供することができました。

受付時には、参加者全員に検温の実施とマスクを配布し、競技中以外はマスクの着用を促し、感染防止対策の強化を図りました。今回の大会は、競技種目を減らし、表彰式も取止め、恒例のカレーライスの昼食も中止するなど、大会全体を縮小して実施しましたが、参加者全員に津別町の特産品等が当たるお楽しみ抽選会を開催するなどして、少しでも大会を盛り上げようとしてきたところ。大会の運営にご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

次に、**地域連携特例校等の再編整備に係る意見交換会**についてあります。10月8日、札幌市で開催された北海道町村会民生文教常任委員会に、北海道教育庁と20の所在地町長及び教育長が出席する意見交換会が開催されました。これは、平成30年3月に策定された「これからの高校づくりに関する指針」において、地域連

携特例校（旧指針では地域キャンパス校）について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備するとし、特例的な取扱いとして、所在市町村をはじめとした地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組と、その効果を勘案して、「再編整備は留保」するが、2年連続して10人未満となった場合は、再編整備するとされています。

しかし今般、北海道教育庁はこの指針を見直す考えであり、その内容は、再編整備の留保に期間を設けようとするもので、留保が5年間経過した翌年度において、20人未満の場合は、「公立高等学校配置計画」で再編整備を進めることを公表するというものです。従って10人台を確保し続けても意味がなくなることから、意見交換会において、高校教育に対する懸念や道立高校としてのあり方について議論が行われ、今後の取扱いについては、民生文教常任委員会に一任されることになりました。新たな指針は今年度中に策定する予定であることから、今後、本町も同常任委員会とともに対応していく考えであります。

次に、全国育樹祭への参加についてであります。10月10日、北海道立総合体育館において、第44回「全国育樹祭」が開催され、

当町はリモートにより参加しました。

本育樹祭は、皇族殿下による「天皇皇后両陛下お手植え樹木」のお手入れや、記念式典を通じ、継続して森林を守り育てていくことの大切さを伝える国民的な緑化事業であり、昭和52年以降、都道府県の持ち回りにより開催され、本年は本道での開催となりました。

育樹祭の閉会にあたっては、国土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止など多面的機能を発揮している森林を社会全体で守り育て、豊かな森林を次の世代に引き継いでいくことを目指し、「100年先を見据えた国民参加の森林づくり」、「森林視線の循環利用の確立」、「森林づくりを担う青少年の育成」が宣言されました。

本町も、「愛林の町」を宣言している自治体として、森林を守り育てていくことの大切さを町民に伝え、豊かな森林の保全、循環利用の促進に努めて参ります。

なお、今議会におきまして、契約の締結の議案等を提出いたしますので、慎重にご審議の上、原案にご協賛賜りますようお願い申し上げます。